

テーパリング決定後も株高基調は継続へ



シニア・ストラテジスト 石黒英之

ポイント① 実質金利のマイナス継続が支えに

11月2日～3日に開催されたFOMC（米連邦公開市場委員会）でFRB（米連邦準備制度理事会）は11月からのテーパリング（量的金融緩和の段階的縮小）を決定しました。FRBが金融政策の正常化に動き出したことで、今後の米国株の行方に対して懸念する向きもあります。結論としては、当面株高基調は継続すると想定されます。前回の米金融政策正常化局面では、テーパリング開始前から米実質金利が急上昇したものの、企業業績が堅調だったこともあり、S&P500種株価指数は上昇基調が続きました。今回は前回と比べ米実質金利が大幅なマイナス状態となっているほか、米企業業績についても現時点では2023年まで拡大基調が続くとみられており（10/22付・「S&P500の最高値更新が意味することは？」参照）、米株式市場を取り巻く環境は良好と考えられます（右上図）。

ポイント② 低金利長期化観測もプラスに

米国では新型コロナの感染拡大を乗り越えた後、景気が急回復し、米長期金利に上昇圧力がかかる場面もみられました（右下図）。ただ、米景気の先行きをいち早く反映するとされるNY連銀Weekly Economic Indexは、米景気の前々の減速を表しており、米長期金利が上昇しにくい状態にあることを示しています。そうであれば、米実質金利のマイナス状態も長期化するとみられ、株式などのリスク資産に投資しやすい環境が続くとみられます。

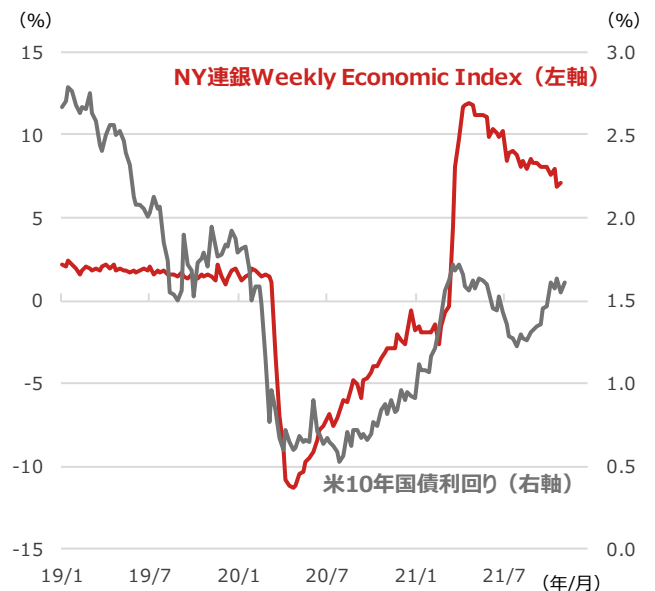
もちろん景気減速による業績の下振れには注意を要します。ただ今の米国株は景気の影響を受けにくいとされるIT（2021年第2四半期：21%）・ヘルスケア（同：16%）の利益ウェイトが高く、利益成長・株高という構図は継続と想定されます。

S&P500と米実質金利



期間：2013年1月4日～2021年11月3日、週次
・米実質金利：Bloombergジェネリック米10年物価連動国債利回り
(出所) Bloombergより野村アセットマネジメント作成

NY連銀Weekly Economic Indexと米10年国債利回り



期間：2019年1月5日～2021年11月3日、週次
(NY連銀Weekly Economic Indexは2021年10月30日まで)
・米10年国債利回り：Bloombergジェネリック米10年国債利回り
・NY連銀Weekly Economic Index：雇用や消費など複数の経済指標を合成したもので、その時点でのGDP成長率（前年比）を示唆する指数
(出所) Bloombergより野村アセットマネジメント作成

*当資料は、一部個人の見解を含み、会社としての統一見解ではないものもあります。

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆ないし保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認ください。